

大正・昭和の鳥瞰図絵師

連載 第20回

吉田初三郎の世界



関東第一の魅力 銚子市

銚子市鳥瞰図

文・藤本一美

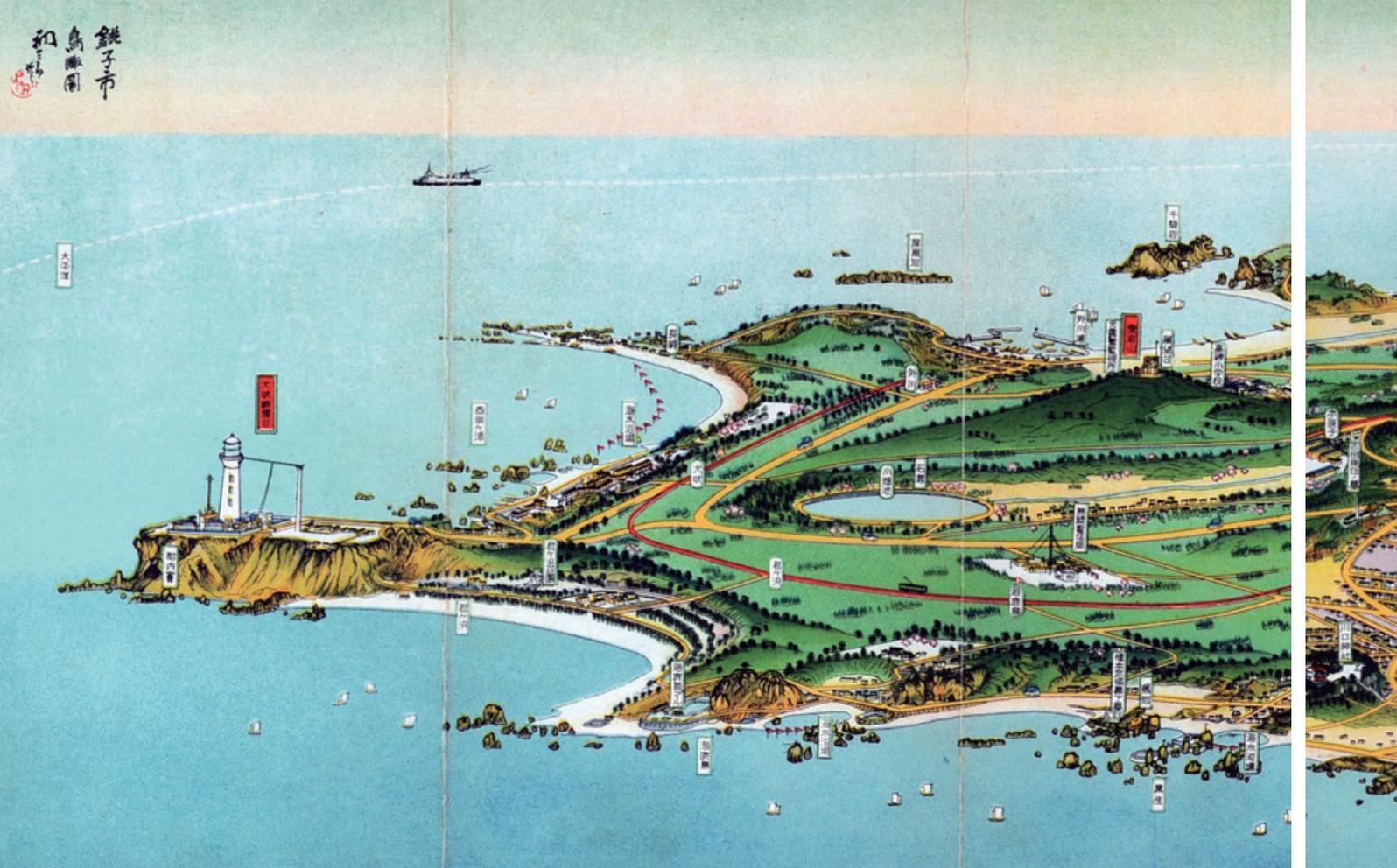
text by Kazumi FUJIMOTO

副業の「ぬれ煎餅」の製造販売で一躍注目を集めた地方鉄道・銚子電気鉄道の歴史は、大正二年に銚子―犬吠間を開業し、大正六年に廃止となった銚子遊覧鉄道に始まる。廃止の五年後、銚子鉄道として再起し、旧銚子遊覧鉄道の線路を再敷設。さらに外川^{とがわ}まで延伸して、大正十二年七月、銚子―外川間六・四kmの営業を開始した。昭和二十三年八月には、企業再整備法に基づき、銚子鉄道から資産の譲渡を受け、銚子電気鉄道として新たに発足している。

本図の初三郎鳥瞰図作品が誕生したのは、昭和九年。銚子駅から終点外川駅までの、のどかな銚子電鉄の沿線風景や海浜の様子、銚子市内の町並みを、利根川河口上空の視点から北西方面に向けて立体的絵図として巧みに表現している。銚子は大正十一年、十五年に続いて三作目（戦後版一点は模倣品）で、特に初三郎工房爛熟期の代表作品の一つである

藤本一美

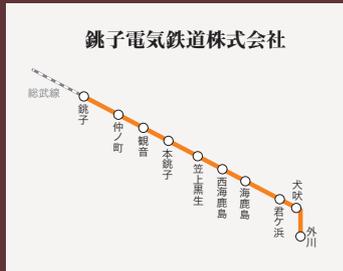
首都大学東京・専修大学非常勤講師。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『関東第一の魅力 銚子市 [銚子市鳥瞰図]』

(昭和9 (1934)年)

銚子市観光協会 発行
京都市内の観光社出版部 印刷



銚子電気鉄道株式会社

Choshi Dentetsu Co., Ltd.
設立：大正11 (1922) 年10月10日
本社：銚子市新生町 2-297



大正の面影を残しながら 走り続ける路線長6.4kmの小さな鉄道

その前身である銚子遊覧鉄道の開業から数えれば、すでに100年を超える歴史をもつ。乗客の減少や運行の長期中断、近年の業務改善命令や経営者の不祥事など、何度も経営危機に見舞われたが、副業の「ぬれ煎餅」の大ヒットと大勢のサポーターたちの支援で、踏みとどまってきた。社員一丸となった存続への努力は、いまでも懸命に続けられている。

銚子から外川までの6.4kmに駅数は10駅。大正期の建築となる木造駅舎や電気機関車、単線の鉄路を走るレトロな電車など、郷愁をそそるたまたまが人気だ。銚子市のシンボルとして多くの人に愛されている。



う。

仔細に見ると、構図の半分を占めるのは、利根川河口に立地した漁業基地・銚子である。大型・小型の漁船や釣り船、投げ網舟までも描写し、

岸壁の魚市場や製水会社、船(船員)の守り神・銚子飯沼観音の賑わい、風待ち港、通行する船の水脈を

知らせてくれる「滯標」の一ノ島灯台。また、古くからの伝統産業・醤油の

町だけに「ヤマサ」と「ヒゲタ」の工場群(商標付き)を、本銚子駅近くには富士浅間信仰の浅間神社(実は本物の富士山を遠望できるのだ)を、さらには『大日本地名辞書』の編纂で著名な歴史地理学者の吉田東伍(一八六四〜一九一八年)の墓まで表示して、いて嬉しくなる。

左半分は広々とした太平洋で、風光明媚な海岸美の犬吠崎(岬)灯台や外川浦、大三角測量点で知られた愛宕山が目立つくらいだ。指標ともなるいつもの富士山や筑波山の双耳峰は右上にやや小さく配置して、奥行きを出す表現方法である。

蛇足だが、沿線の犬吠駅そばの老舗旅館・ぎょうけい館には「銚子遊覧交通名勝鳥瞰図」絹本原画(大正十五年・初三郎作画、額装六三×二五五cm)があり、銚子鉄道時代の沿線を知る縁としたい。